

“be X-ed out”の生産性の考察
—アメリカ口語における固有名詞の動詞化の一側面—

竹中裕貴

0. はじめに

本来ある語が属する一つまたは複数の品詞カテゴリーから、他の新しい品詞としての機能を獲得し、例えば、名詞が動詞として使用されるような言語現象は品詞転換 (conversion) と称される。この言語現象に関しては、商品名を中心に、山田 (2005)、田中・竹中 (2007)、竹中 (2008) などに取り上げ、アメリカ英語の中の固有名詞を巡る表現が、その言語文化の中で重要な位置を占めていることを示した。

しかし、ある一定の原理 (cf. Clankie 2002, 竹中 2009) の下に、その基準を満たしたもののうち、幾つかが品詞転換を経て新たな統語的、意味的特徴を持つ用法を派生させる一方で、それらは多くがアメリカ英語の中に定着する前に自然に消滅してしまう。そのため、それぞれの表現について、更に追跡調査していくことが重要であることも、議論してきた通りである。特に、臨時語 (nonce word) と呼ばれ、特定の場面においてのみ、その場限りで使用が可能な表現である個人方言 (idiolect) の一種とも考えられるからである (cf. コンサイス英文法辞典, p. 486-7)。これらの表現は、格式張らず (informal)、口語的 (colloquial) であることが多く、例えば、竹中 (2008, pp. 40-1) で、“be Xanax-ed out” という商品名の表現を、以下の (1) のようにすでに取り上げている。(以下、引用文中の下線部は筆者によるものである。)

(1)

「米国 Michigan 州の The Upjohn Co. (1958年創業) 製の抗うつ剤」(山田 1991) で、同じように一般化した意味を持つ名詞への発展を経ずに動詞へと言語変化を遂げた一例である。意味的にも商品名そのものからは一歩離れ、くだけた言い方で、抗うつ剤を使用した後の「意識がもうろうとする」状態を表す動詞へと変化を遂げ、確認された例では、すべての場合において “Xanax out” という形で使用されている。以下は、*New York Times* において、理想の妻という話題で語られた記事の一部分である。

- (11) “...you don't want her looking like she's been Xanax-ed out and is sitting there on drugs -- even if that's often the case.”

(<http://www.nytimes.com/2003/10/19/style/the-wifely-art-of-standing-by.html?sec=&spn=&pagewanted=2>)

このような表現は、上記のように常に臨時的な側面を内包するが、最終的にはアメリカ文化の中に

広く浸透し定着する可能性も秘めており、単なる臨時語として無視することは出来ない。

本稿では、こうした“be X-ed out” [X は任意の名詞] という表現に着目し、どのように具体的な社会的文脈の中で用いられているかを概観した後、“be X-ed out”によって生み出される英語表現のパターンを言語学的に分析し、その統語的・意味的位置づけを提示する。そして、改めてそれらが言語文化的にどのような意義をもっているのか、その一端を明らかにしたい。

1. 社会的文脈における“be X-ed out”

本稿で取り上げる“be X-ed out”は、まだ一般的と言えないまでも、英語話者によって日々生み出される表現であり、数多く存在すると思われる。また、これに関わる臨時用法 (nonce use) の研究もすでに見受けられ、文法書などにもその記述がある。品詞転換を通して、英語という言語そのものに生き生きとした表現効果を与えたり、新しい表現を生み出すことに寄与するものとして重要な言語現象なのである。

その中で、本稿で注目するのは、上述 (1) の表現のように、“out”という副詞辞 (adverb particle) を伴う“be X-ed out”という表現である。“X”の部分には、様々な名詞が当てはめられ、コンテキストに応じて多様な意味が派生する。したがって、この表現も非常に生産性が高く、使用頻度も比較的高いものである。例えば、インフォーマント調査において、アメリカ英語話者が最近使用した“be X-ed out”を用いた表現を調査したところ、種々の用例が確認できたが、以下にその一部を挙げてみたい。¹

ピザづくめで、もう夕食では食べたくないというコンテキストにおいて、(2a)のような表現が使用できる。(2b)も同じように、食べ物に関わる表現であるが、すしばかり食べたために、もううんざりだという意味で、同様の形で表現が使用できるという。

- (2) a. I'm all pizza'd out after last weekend. I don't want it for dinner.
b. I'm Sushi'd out.

また、インフォーマント調査において確認された商品名に関わる固有名詞としては、(3)のような表現もあった。CSとは、Counter-Strikeという、テロとの戦いをテーマにした、パソコン上で遊ぶオンラインゲームのことである (<http://en.wikipedia.org/wiki/Counter-Strike>)。これを長時間遊んだ後、飽きてしまい、疲れ果ててしまったため、対戦相手にもう止めたいということを伝えるための発言である。

- (3) Well, I think I'm all CS'd out.

このような表現が多数存在するにも関わらず、上記のような“be X-ed out”の形をとる表現の分析は、ほとんど見られない。そこで本稿では、Xに当たる名詞をアメリカ英語の固有名詞に限定して調査し、その一端を明らかにしてみたい。Xには、上述のように、あらゆる名詞が想定されるが、

これまで行ってきた商品名の研究，とりわけ品詞転換に関わる用例を分析すると，(1) や (3) の用例もそうであるが，“be X-ed out” の形で頻繁に使用されていることが分かったからである。

以下，固有名詞が X に用いられた例を中心に，こうした“be X-ed out” がどのような社会的文脈の中で用いられているのか，用例を吟味していく。

1.1. Facebook'd out²

まず，最近インターネット上でよく見かける Facebook が X に用いられた例を確認してみたい。

- (4) Now, here's a question. Are you Facebook'd out? I get kind of Facebook'd out. Discover why therapists are saying social networking might get you in pretty big trouble.

(<http://transcripts.cnn.com/TRANSCRIPTS/0904/25/hcsg.01.html>)

Facebook とは，近年インターネット上で友人や家族，またはその他の見知らぬ人々とコミュニケーションを行うことの出来るソーシャルネットワークワーキング (social networking) と呼ばれるサービス (商品名) の一種で，現在アメリカを中心に非常に流行している。大変便利なため，多くの人々によって活用されている一方で，依存症 (Facebook addicts) となってしまう人が多くいることが社会問題化している。上記の，“Are you Facebook'd out” という表現は，CNN の *House Call* という番組において司会を務める医師の Sanjay Gupta の発言であるが，このような問題を抱える Facebook について，視聴者が「Facebook づけになっている」かどうか尋ねているのである。

(4)に後続する例で，(5) がある。これも，(4) と同じように、「Facebook づけになっている」という意味で，様々なインターネットのコミュニケーション用のツールを多用していた筆者が自分自身のことを述べた一文である。

- (5) So now, I'm just kind of Facebooked out, I've tweeted a little too much, I am too linked in to LinkedIn and I don't Jaiku as much as I used to.³

(<http://www.elementfusion.com/i-dont-need-another-social-networking-site>)

また，Facebook と同様に流行している，インターネット上でつぶやくように自分のコメントを投稿できるサービスである Twitter にも，以下のような用例が見つかる。

(6a) は，Twitter を使用したビジネスに関する議論におけるコメントであるが，Twitter の機能を試していた筆者が，それに疲れてしまったという意味で，“be Tittered out” という表現を使用している。一方，(6b) は，主語ならびに be 動詞が省略された形のタイトルであるが，記事の内容は，Oprah Winfrey が Twitter の使用を始めた直後，24% も利用者が増えたが，その後急激に減少し，利用者の 60% はその使用を止めてしまったという内容である。したがって，この記事のタイトルは，「Twitter づけになっている」のかを尋ねていると同時に，もう「Twitter にあきてしまった」のかと意味も込められているように思われる。

- (6) a. I am Twittered out for now.

(<http://smallbusinessonlinecommunity.bankofamerica.com/message/83773>)

- b. Twittered Out?

(<http://www.itbusinessedge.com/cm/community/kn/blog/twittered-out/?cs=32192>)

1.2. Coca-Cola'd out

以下の *New York Magazine* は、2008 年のオリンピックをニューヨークに招致することについて議論しているが、この記事を書いた Michael Tomasky は、以下の (7) のように、言葉遊びのようにして、“be X-ed out” を多用している。

- (7) a. I know, I know: You're Olympic'd out.

- b. I'm Atlanta'd out, and Coca-Cola'd out, and Nike'd-and-Reebok'd-and-Budweiser'd out.

KNOW, I KNOW: YOU'RE OLYMPIC'D OUT. I AM, TOO. WELL, actually, I'm Atlanta'd out, and Coca-Cola'd out, and Nike'd-and-Reebok'd-and-Budweiser'd out. But give me three minutes. This is important.

Dan Doctoroff, a partner of zillionaire Robert Bass, was sitting in the Meadowlands at the 1994 World Cup soccer tournament, watching Italy play Bulgaria. The buzz, he recalls, was “absolutely electric. . . . I thought to myself,” he continues, “you could substitute, in the New York area, any two countries in the world and the effect would be the same.”

– *New York Magazine*, August 12, 1996

まず、この記事の筆者は、読者に対して、(7a)にあるように、“be Olympic'd out” という表現を使用している。1996年の夏期オリンピックは、アトランタ (Atlanta) で行われたが、連日の報道に「オリンピックはもうたくさんでしょう」と、“be X-ed out” を使用することで表現している。そして、さらに、(7b)のように続け、オリンピックの開催地の Atlanta をはじめ、Coca-Cola や Nike, Reebok, 最後には Budweiser にまで、(7a)の意味が適用されることで、筆者も、「実はもう嫌気がさしているんだ」ということを示している。⁴

当然、このような一連の表現が可能であるのは、当時アメリカがオリンピックで盛り上がりを見せていたという環境や、コンテキスト上でそれぞれの語が、オリンピックの背後で代表的なスポンサーとなって商業展開している企業があり、そうしたことが読者であるアメリカ人達の間、表現を理解する上で必要な前提条件 (presupposition), あるいは共通の知識 (shared knowledge) として存在しているからである。

1.3. Kool-Aided out

アメリカ合衆国の国土安全保障省長官 (Homeland Security Secretary) である Janet

Napolitano が、テロリスト対策として、“terror” という語の使用をやめ、代わりに、“Man-Caused Disaster” という表現の使用を始めたことが昨年話題となったが、以下はそのことについてのインタビューでの発言をまとめた記事の一部である。

- (8) I'm sure eliminating the WORD “terror” will make terrorist acts less terrifying. I'm sure when suicide bombers and skyjackers crash planes into buildings after this point, we won't feel terrified, we won't think it is an act of war, we will just think “Huh. Just like a tornado! Only people did it. Well, I'm not scared or anything, but I hope it doesn't happen here.”

(<http://newsbusters.org/blogs/tim-graham/2009/03/19/obama-speak-homeland-security-secretary-replaces-terrorism-term-man-caus>)

この記事を読んだ読者の一人は以下のように、“kool-aided out” という表現を使用して批判している。

- (9) That's like trying to convince everyone [who is not yet kool-aided out] that not saying the word ‘fart’ will make a bad bout of “whacko taco flatulence” via Senior Frijoles Negros Palace of uber poop shooter tacos stink any less.

(<http://newsbusters.org/blogs/tim-graham/2009/03/19/obama-speak-homeland-security-secretary-replaces-terrorism-term-man-caus#ixzz0fhrPbdKy>)

“kool-aided out” に関しては、より深い言語文化的背景知識がなければ、表現に込められた意味にまで到達することはできないであろう。

この“Kool-Aid” というソフトドリンク（山田 1991, p. 239）の商標に関しては、山田（2005）や竹中（2005, 2007）で既に詳しい説明を加えており、本稿では、詳述しないが、人民寺院（Peoples Temple）の信者の集団自殺に使用されることで、「ある人やものを盲目的に信用してしまう」または、「忠誠を誓う」などの意味をもつに至っている。

そして、このような文化的背景が読み込まれることで、上記の下線部は、(10) のような解釈が与えられることになる。

- (10) ... everyone who is not yet kool-aided out

...（オバマ大統領やナポリターノ国土安全保障省長官のことを）まだ盲目的に信じておらず、思考が停止していない全ての人々

また、同じように以下のような例文も確認できた。(11a) では、Apple が、Google の開発した iPhone や iPod 専用のアプリケーションの採用を拒否したことを、*Business Insider* などの編集

者として知られる Dan Frommer が批判した記事への、読者の反応である。Apple の販売する OS である Mac に対して、Microsoft は Windows を販売しているが、Apple の運営方針を批判する記事の執筆者が、“windows matrix”，すなわち Windows の OS 構造によって、思考停止、または洗脳状態に陥っているのではないかと痛烈に批判したものである。(11b) は、オバマ政権の経済政策に関わる記事についての読者同士の議論の中でのコメントの一つであるが、オバマ大統領の政策に寛容な姿勢を示す他のコメントを批判したものである。ここでは、“too ~ to ...” 構文の一部となっており、政策が過ちであることが「オバマ政権を盲信するあまり、さらに政府予算を支出することは応援すべきことではないということが分からなくなっているのではないのか」と述べているのである。

(11) a. Holy cow Dan are you that Kool-Aided out by the windows matrix?

(<http://www.businessinsider.com/apple-rejects-google-again-2009-7>)

b. Look, you dumbclucks, six hundred thousand GOVERNMENT JOBS is not good news for taxpayers, or are you too Kool-Aided out to understand that more government spending isn't something to cheer about?

(http://www.politico.com/blogs/bensmith/0109/Dawson_pledges_to_becomes_Obamas_and_Democrats_worst_nightmare.html)

2. “be X-ed out” の言語学的特徴について

これまで、“be X-ed out” が具体的にどのような社会的文脈で使用されているかを見てきたが、それらの例を基にして、以下、“be X-ed out” の言語学的特徴をまとめていきたい。

2.1. 受身文としての統語的特徴

まず、“be X-ed out”を受身構文の一つとしてみた場合の統語的・意味的な特徴をまとめる。それぞれの構成要素の特徴として、すでに挙げた諸例からは少なくとも、以下のような事柄が分かる。

- (12) (a) 主語には通例 <人> がくる。
(b) be 動詞以外に get をとることもある。(→(4))
(c) be は、現在形を取ることが多い。
(d) “be X-ed” は、基本的には状態を表し、過去分詞は形容詞的解釈を受ける。
(e) 商品名から派生した“be X-ed”によって、繰り返し行われる活動が表されるが、文化的背景が読み込まれると、それ以外の意味を表すことができる。(→ (9), (11))
(f) 過去分詞は、しばしば副詞の all の修飾を受ける。この all は「すっかり、完全に」の意を表し、一時的な状態を表す語を修飾する機能を果たす。⁵ (→ (2a), (3))
(g) by 句は通例省略されるが、原因が強調される場合には添えられることがある。
(→ (11))

以上は、主として表層的な特徴をまとめたに過ぎないが、この表現の本質的な部分について考察を深めていきたい。

2.2. 結果構文の一種としての意味論的特徴

“be X-ed out” は、少し観点を変えると結果構文の一種と見なすことができる。その意味的特徴を考える前に、その表現派生プロセスを以下で確認する。

(13) [表現派生プロセス 1]

まず、結果構文の一形式として、いわゆる “fake reflexive object” をとり、形容詞を伴う以下のものが見出せる。⁶

- a. He talked himself hoarse. —Goldberg(1995)
(彼はしゃべりすぎて声がかすれてしまった。)

[表現派生プロセス 2]

この結果構文と類似して、再帰動詞が out を伴う次のような表現が存在する。

- b. You need a vacation or you'll wear yourself out. —MED

[表現派生プロセス 3]

この表現が受身形で用いられると “be X-ed out” が派生する。

- c. She was worn out from taking care of her elderly mother. —*ibid.*

この表現派生プロセスを想定するにあたって注意すべきことは、派生プロセス途中過程の表現が、必ずしも実際には使用されないということである。本稿における調査では、“S X onself out” に該当する表現はほとんど確認できず、インフォーマント調査でも、以下の (14) のような表現はいずれも違和感があり、その使用は不自然とされた。

- (14) a. * I sushi'd myself out.
b. * I pizza'd myself out.

また、上記のような普通名詞の場合のみならず、例えば (15) のような商品名を使用した例文で確認した場合も同様であった。

- (15) a. * I Coca-Cola'd myself out.
b. * I Nike'd myself out.

しかしながら、(16) のような用例も確認できており、頻度は低いですが、“be X-ed out” の背景に、動

詞の再帰用法を用いた表現が潜在的にあることが窺える。

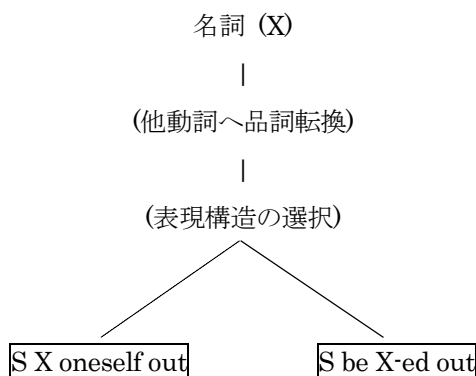
(16) Or maybe I have pizza'd myself out.

(<http://www.mylot.com/w/discussions/2172638.aspx>)

いずれにしても、“be X-ed out” タイプの表現が遙かに出現率が高いように思われる。このような傾向が見られるのは、現代英語において再帰動詞を用いる用法自体がかなり減少傾向にあることが一つの要因として考えられる。

以上のことを踏まえ、この表現の生み出されるプロセスを図示すると以下のようなになる。最終的に、“S X oneself out” となる表現は、上記のように非常にまれである。

(17)



以上のように、“be X-ed out” を類似表現と関連させて結果構文として位置付けたが、“fake reflexive object” を内在的に想定した表現派生プロセス及び“out” の意味を大きく反映し、以下のような結果構文としての意味論的特徴が見出せる。⁷

- (18) a. 過度の動作結果が示され、“out” の「(ある正常な状態から) 離れる」の意を反映し、「X することに疲れた、嫌気がさしている」など、基本的にはネガティブな意味が表される。
- b. 動作の結果が「拡大」の意を表す“out” の意味と連動し、動詞が影響を与える範囲が、ある限界まで拡大することが表され、「完全に [まったく] Xづけになっている」などの意味を表す。

さらに、表現効果、あるいは発話意図を反映させて意味的に特徴付けると、“be X-ed out”は、一種の誇張表現としても考えられる。誇張的な言い回しにより過度な行為を強調し、表現効果として、場合によっては、その新規性からユーモラスな意味合いも生じる。通例用いられない名詞をこの構文にはめ込むこと自体に新規性があり、ある種の表現効果を意図的に生み出す文脈に好まれると考えられる。また、内容によっては、文脈全体として好ましい状況を描写するのも用いられ、驚き

や賞賛的な意味を表すに至っている。すでに指摘した“all”を伴う場合に、この誇張的な意味合いが強く出ると考えられる。商品名がこの構文で用いられる際には、その商品名が持つ社会言語学的な意味まで取り込まれ、各商品名が持つ社会的意味が、特に誇張的に表現されることになる。

3. おわりに

本稿では、特に商品名を中心とした用例を中心に、“be X-ed out”の生産性と、それぞれの表現の意味について考察し、どのようなプロセスを経て表現として成立し、アメリカ英語の言語と文化の中で使用されているのかを分析してきた。

これまでの用例からも明らかなように、“be X-ed out”は、名詞を他動詞として、特に臨時語のようにして表現形成する上で、非常に有用な表現形式であった。格式張らない口語的な表現であり、そこに付加される意味については、Lindner (1981) が提示した“out”のプロトタイプの意味、既存の表現形式としての結果構文からの類推 (analogy)、そして、文化的要素の連想 (association) が深く関わっていることを明らかにした。このような、言語と文化的背景を反映する“be X-ed out”という表現が、同じように多くの言語文化的情報を内包する商品名を含む固有名詞を核として形成されるのは、非常に自然なことであり、必然とも言える。

ただし、今後の永続的な課題として、冒頭でも述べたように、本稿で扱った表現が、以後どのようにアメリカ文化で変化していくのか、あるいは消滅してしまうのかということは、追跡調査を継続して行っていく必要がある。また、より多くの表現を収集し、分析していく必要があるだろう。本稿で扱った、固有名詞を中心とした“be X-ed out”の表現は、実際のところ、現代アメリカ英語の中で使用されているものの、ほんの一部でしかない。さらなる表現の収集と分析は、本稿では明らかとならなかったアメリカ英語の言語規則や、文化的背景の解明のさらなる足がかりとなると信じる。

【注】

- 1) この場を借りて、インフォーマント調査に協力して下さった元島根大学外国語教育センター特別嘱託講師 Steven Sheriff 氏、Central Washington University で筆者の学友であった Cody Riedel 氏、Robert Johnston 氏に感謝を申し上げたい。
- 2) 今回の調査では、綴字法について、X-ed out や X'd out などが確認できているが、これらの語形の選択に関しては、語尾が母音か子音かなどによる音韻規則とは直接的には無関係であるように思われる。視覚方言 (eye dialect) までいかないにしても、この綴りのバリエーションも表現の持つ生き生きとした口語性を反映していると考えられる。
- 3) ここで動詞として使用されている Jaiku は、後述の Twitter と同様のサービスを提供している商品名であり、筆者が Jaiku の使用をしなくなったことが表現されている。
- 4) 引用文中の商品名、Coca-Cola, Nike, Reebok, Budweiser については、山田 (1991) が詳しい。また、Nike については、メーカーとオリンピックとの関わりについての情報も得られる。

5) 確認できた用例は少ないが、以下のように 人名を使用することによって “Obama’d out” などのような表現も可能である。以下でも、すっかりオバマ党になってしまっているわ」と感情を吐露していると考えられる。

Gee Obama’s so wonderful; he is god himself; so charming and charasmatic and elloquent!!
Blahhhh, give me a break – I’m all Obama’d out!!
(<http://politicalticker.blogs.cnn.com/2008/04/03/obama-close-to-bush-record/?fbid=J2eU9V2WxCC>)

6) “fake reflexive object” の用語については, Goldberg (1995) 参照。

7) “out” の詳しい意味拡張については, Lindner (1981) 参照。

参 考 文 献

[辞書・論文・研究書]

Macmillan English Dictionary. 2002. Oxford: Macmillan. [MED]

Clankie, Shawn M. (2002), *A Theory of Genericization on Brand Name Change*. Studies on Onomastics, Vol. 6. Ceredigion, Wales: the Edwin Mellen Press.

Goldberg, Adele E. (1995), *Constructions: A Construction Grammar Approach to Argument Structure*. Chicago: the University of Chicago press.

Lindner, Susan (1981), *What goes up doesn’t necessarily come down: The ins and outs of opposites*. Papers from the Regional Meeting of the Chicago Linguistic Society 18: pp. 305-323.

竹中裕貴 (2007), 「商品名に見るアメリカ英語と背景文化」『時事英語学研究』46, pp. 79-92.

——— (2008), 「アメリカ英語表現の中の固有名詞」『英語の言語と文化研究』第11号, pp. 35-44.

——— (2009), 「英語商品名の言語学的研究-Genericization における段階制の考察」『島根大学外国語教育センタージャーナル』第4号, pp.64-74.

田中芳文・竹中裕貴 (2007), 『島根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要』第1号, pp. 101-110.

安井稔 (1996), 『コンサイス英文法辞典』第1版, 三省堂.

山田政美 (編著) (1991), 『英和商品名辞典』第2刷. 研究社.

——— (2005), 「商品名を侮ると大怪我をする」『英語教育』第54巻, 第9号, pp 28-29.

[インターネット資料]

Element Fusion <http://www.elementfusion.com/i-dont-need-another-social-networking-site>

ITBusinessEdge.com <http://www.itbusinessedge.com/cm/community/kn/blog/twittered-out/?cs=32192>

mLot <http://www.mylot.com/w/discussions/2172638.aspx>

New York Times.com <http://www.nytimes.com/2003/10/19/style/the-wifely-art-of-standing-by.html?sec=&spon=&pagewanted=2>

News Busters <http://newsbusters.org/blogs/tim-graham/2009/03/19/obama-speak-homeland-security-secretary-replaces-terrorism-term-man-caus>
<http://newsbusters.org/blogs/tim-graham/2009/03/19/obama-speak-homeland-security-secretary-replaces-terrorism-term-man-caus#ixzz0fhrPbdKy>

Politico http://www.politico.com/blogs/bensmith/0109/Dawson_pledges_to_becomes_Obamas_and_Democrats_worst_nightmare.html

Small Business Online Community <http://smallbusinessonlinecommunity.bankofamerica.com/message/83773>

Wikipedia <http://en.wikipedia.org/wiki/Counter-Strike>

(たけなか ゆうき・島根大学外国語教育センター特別嘱託講師)

